新座中だより

学校教育目標
強く　明るく　考える

〒352－0011　埼玉県新座市野火止２－４－１
℡　048－478－3668
HP https://j-niiza-c-niiza.edumap.jp
新座市立新座中学校

「１１月号」
令和８年１１月２日発行

あいまいさに耐える

校長　伊藤大輔

スーパーでの買い物中に見かけたある一場面。お母さんと五歳くらいの男の子との会話です。

母:「桃とブドウ、どっちにする？」

子:「どっちもほしい。」

母:「じゃあ、うどんとそば、どっちにする？」

子:「うーん･･･どっちでもいい。」母:(ためいき)

教室にも同じような場面はないでしょうか。話合いで意見が分かれる。相手の気持ちがわからない。明日の予定がはっきりしない。先生の説明を聞いてもモヤモヤする。こんなとき、落ち着きを失いませんか。不安になりませんか。いらいらしませんか。冒頭のお母さんの「ためいき」に共感しませんか。

私は優柔不断で、のんびりマイペースな性格なので、選択を迫られることが苦手でした。勉強でも同じ。先生の説明に納得しないと、くよくよ悩んでばかりいました。中学二年生一学期のある日、英語の授業でwillとbe going toという表現を習いました。先生はどちらも未来を表す形で、「未来時制」で使われると説明されました。時制とは時間のことだと教わりました。この瞬間、モヤモヤが湧きだしました。今日の午後のことだろうと、明日のことだろうと、百年後のことだろうと「今・ここで」考えることなのに「未来時制」で使われるってどういうことだ？「現在時制」じゃないのか？と混乱しました。そのときは、先生を困らせたくなかったので、質問はしませんでした。形を覚えることが先決、と深追いはやめました。が、この妙な言い回しへの違和感は心にこびりつきました。

時は流れて、高校一年生英文法の授業の初回で先生がこんなことを言いました。「文法用語を覚えたって、英語は使えるようにならん！この一年間、覚える価値のある良質な英文を教えるから、とにかく正しい発音で、ひたすら音読して頭に叩きこめ！」と。その迫力に、おののきつつも、放課後その先生をたずねました。そして「時制」の疑問を恐る恐るぶつけました。開口一番、「未来時制？文法用語なんてどうでもいい。未来のことを言ったり聞いたりするのは現在のこと？そうだ。その通りだ。よく気付いたな。よし、わかった。ここに理屈が書いてある。」先生は笑いながら、薄い参考書を貸してくれました。この本に私が納得する答えが書いてありました。数年がかりで疑問が晴れたとき、調べるって面白いなぁと心から思いました。

学びから人間関係に至るまで、人はモヤモヤした時間を過ごすことがあります。どっちつかずで答えが出ない状況、答えが一つに決まらない状況、見通しがはっきりしない状況などに際したときに、混乱せずにその状況に向き合う力を「あいまいさ耐性」と言います。学校は下半期を迎えています。これまで受けた授業や学習で引っ掛かりや素朴な疑問はありませんか。もしあるなら、もう一度それらを立ち上げてください。今なら自力で解決できるかもしれません。周りに聞いたら、その靄(もや)が晴れるかもしれません。解決できなかったとしても、簡単にあきらめないでください。解決を急がず保留しましょう。

とは言え受検(験)を前に、そんな悠長(ゆうちょう)なことをしている暇はない、との声が三年生から聞こえてきそうです。その通りです。今優先すべきことにはしっかりと力を注ぐべきだと思います。だから私も、先の疑問の深追いはやめました。ただし忘れないようにメモだけは残しておきました。

さて、世の中が、効率を重視して、「最短、最速、即断」を追い求めると、どっちつかずで保留する状態に耐えられなくなる傾向が強まります。生成AIの拡充なども、こうした社会の在り方が影響を与えているのかもしれません。かくいう私も、あいまいさに耐える力に衰えを感じます。「すぐ答えを知りたい」「白黒はっきりさせたい」「正しいのか間違っているのか、判断を急ぎたい」こうした思いが心をよぎる場面が増えました。厄介に思える問題であればあるほど、早く片づけたいと心がざわつくのです。こうした場面でこそ、保留が功を奏することは何度も経験しているのに、焦ってしまうのです。

大切なことは自ら問いを立て、立てた問いを最短最速で解決するのではなく、さらに良いものにしようとする心の働きです。多感な時期を過ごす新座中の皆さんには、そんな探究の芽を育てることにも力を注いでほしいのです。不確実さと向き合えることは、人間の最大の強みだと思うからです。